

最も多い欠票理由は仙台・首都圏ともに拒否によるもので、次いで一時的な不在による接触不能となっている。仙台では男女間の欠票理由に異なった傾向はあまりみられないが、首都圏の場合、男性は拒否に次いで不在による欠票が多いのに対して、女性は欠票のほとんどが拒否によるもので、調査不能理由に男女差がみられる。

このように、今回のプレテストにおいても、社会調査論に関する既存研究が指摘してきたような「大都市圏よりもその他の地域の方が、男性よりも女性の方が、若年層よりも高齢層の方が」より回収率が高いという傾向がみられた。また、欠票理由については、拒否、不在による調査不能が多く、地域によっては男女差があることが示された。このことから、若年男性層（特に都市圏に居住する調査対象者）に対しては、調査協力を依頼する機会が得られるよう訪問日や時間を工夫し、不在連絡票を有効活用することが望まれる。また、男女を通じて調査に対する理解と協力を得る努力がより一層必要と思われる。

4.2 調査票における無回答の数

回収率を向上させることは標本の代表性を確保するという観点から重要であることはいうまでもないが、回収された調査票の記入内容に無回答が数多く存在するデータでは母集団の推定を的確に行うことができない。ここでは、回答者の属性と回答者ごとの調査票における無回答数の関連について検討する。なお、今回の調査票には属性によって回答者を限定する設問も含まれているため、分析対象とする質問項目は全ての回答者に共通する 19 問（84 変数）である（表 7-4）。集計に際しては、それぞれの変数を[有効回答=0]/[無回答(DK)=1]に変換したうえで共通項目における無回答数の総和を算出した¹⁾。

表 7-4 全調査対象者に共通する質問項目

問番号	質問項目
問1 b)	世帯員1人目（回答者）の性別
問1 c)	世帯員1人目（回答者）の年齢
問1 d)	世帯員1人目（回答者）の配偶関係
問1 e)	世帯員1人目（回答者）の健康状態
問2	同居世帯員数
問3	居住形態（住宅の種類）
問4	部屋数
問5	居住年数
問6	子どもが欲しいか否か
問7 a) あなた欄	回答者の出生年月（年号）
問7 a) あなた欄	回答者の出生年月（年）
問7 a) あなた欄	回答者の出生年月（月）
問7 b) あなた欄	回答者の最後に行った学校
問7 c) あなた欄	回答者の在学・卒業・中退の区分
問7 d) あなた欄	15歳までの主な居住地
問7 f) あなた欄	昨年の年収
問8 a) あなた欄	家庭内の仕事分担（料理や食事の後片づけ）
問8 b) あなた欄	家庭内の仕事分担（洗濯）
問8 c) あなた欄	家庭内の仕事分担（部屋の掃除）
問8 d) あなた欄	家庭内の仕事分担（食料品・日用品の買物）
問8 e) あなた欄	家庭内の仕事分担（簡単な家の修理・修繕）
問8 f) あなた欄	家庭内の仕事分担（家計の管理）
問9 a)	家事の外部サービス利用（スーパーやコンビニで総菜や弁当を買う）
問9 b)	家事の外部サービス利用（外食をする）
問9 c)	家事の外部サービス利用（出前や仕出しをとる）
問9 d)	家事の外部サービス利用（家のお掃除サービスをたのむ）
問9 e)	家事の外部サービス利用（ワイシャツなどをクリーニングに出す）
問9 f)	家事の外部サービス利用（ホーム・ヘルパーに身の世話をたのむ）

表7-4 全調査対象者に共通する質問項目 (つづき)

問番号	質問項目
問10 a)	意識 (女は結婚しなくても、充実した人生をおくることができる)
問10 b)	意識 (結婚の主な目的は、子どもをもつことである)
問10 c)	意識 (結婚せずに、男女がいっしょに暮らしてもよい)
問10 d)	意識 (子どもがいても、不幸せな結婚なら離婚してもよい)
問10 e)	意識 (妻が夫より収入が高いと、夫婦の関係が悪くなることが多い)
問10 f)	意識 (男は子どもがいなくても、充実した人生をおくることができる)
問10 g)	意識 (男は結婚しなくても、充実した人生をおくることができる)
問10 h)	意識 (母親が勤めると、就学前の子どもによく影響をあたえることが多い)
問10 i)	意識 (男が家族を養い、女は家庭をまもるのが、みんなにとってよい)
問10 j)	意識 (夫婦ともにフルタイムで働いているなら、家事は平等にやるべきだ)
問10 k)	意識 (女は子どもがいなくても、充実した人生をおくることができる)
問10 l)	意識 (父親が仕事ばかりしているのは、子どもにとってよくない)
問10 m)	意識 (働き口が少ない時、女よりも男が就職の優先権をもつべきだ)
問10 n)	意識 (親のめんどうをみるのは、長男の義務である)
問10 o)	意識 (親が世話を必要とする時、息子よりも娘がめんどうをみるべきだ)
問10 p)	意識 (成人した子どもが経済的に困っている時、親は援助すべきだ)
問10 q)	意識 (親が経済的に困っている時、成人した子どもは親を助けるべきだ)
問10 r)	意識 (独身の女性は、異性と性交渉をもつてもかまわない)
問10 s)	意識 (一般的に言って、人は信用できる)
問11 a)	現在の心理的状況 (頼れる人がたくさんいる)
問11 b)	現在の心理的状況 (何をしてもむなし)
問11 c)	現在の心理的状況 (ひとりぼっちで寂しい)
問11 d)	現在の心理的状況 (心から信頼できる人がたくさんいる)
問11 e)	現在の心理的状況 (他人から拒絶された気持ちによくなる)
問11 f)	現在の心理的状況 (親しいと思える人がいる)
問12 a)	相談の有無 (仕事・職場について)
問12 b)	相談の有無 (結婚・恋愛について)
問12 c)	相談の有無 (親子関係について)
問12 d)	相談の有無 (子どもの教育・子育てについて)
問13 a)	子どもがいる場合の生活の変化 (生活水準)
問13 b)	子どもがいる場合の生活の変化 (やりたいことをやる自由)
問13 c)	子どもがいる場合の生活の変化 (就職や昇進の機会)
問13 d)	子どもがいる場合の生活の変化 (性生活)
問13 e)	子どもがいる場合の生活の変化 (自分に対するまわりの見方)
問13 f)	子どもがいる場合の生活の変化 (心のやすらぎ)
問13 g)	子どもがいる場合の生活の変化 (生活全般の満足度)
問14 a)あなた欄	現在の就業状態
問14 b)あなた欄	現在の雇用形態
問14 c)あなた欄	職種
問14 d)あなた欄	一週間の平均勤労時間
問16	一週間の希望就労時間
問17 a)	金銭的援助の有無 (あなたや配偶者から家族・親族へ)
問17 a)	金銭的援助の有無 (家族・親族からあなたや配偶者へ)
問18 a)	父親の出生年月 (年号)
問18 a)	父親の出生年月 (年)
問18 a)	父親の出生年月 (月)
問18 b)	父親は健在か否か
問18 c)	父親は介護や看病を必要としているか
問18 a)	母親の出生年月 (年号)
問18 a)	母親の出生年月 (年)
問18 a)	母親の出生年月 (月)
問18 b)	母親は健在か否か
問18 c)	母親は介護や看病を必要としているか
問19 a)	15歳時に父親は仕事についていたか
問19 a)	15歳時に母親は仕事についていたか
問20	婚姻状態

全ての回答者に共通する19問の変数84個に対してどのくらいの無回答が含まれているのかを示したものが表7-5である。

表7-5 共通項目84変数における無回答の頻度と割合

無回答数	84変数中の無回答割合(%)	度数	%	累積%
0	—	95	46.1	46.1
1	1.2	32	15.5	61.7
2	2.4	15	7.3	68.9
3	3.6	10	4.9	73.8
4	4.8	11	5.3	79.1
5	6.0	4	1.9	81.1
6	7.1	16	7.8	88.8
7	8.3	5	2.4	91.3
8	9.5	4	1.9	93.2
9	10.7	1	0.5	93.7
11	13.1	2	1.0	94.7
12	14.3	2	1.0	95.6
13	15.5	1	0.5	96.1
16	19.0	2	1.0	97.1
18	21.4	2	1.0	98.1
27	32.1	1	0.5	98.5
33	39.3	2	1.0	99.5
35	41.7	1	0.5	100.0

プリテストにおいて回収された206ケースのうち、95ケース(46.1%)は共通項目にまったく無回答のない状態である。残り61.7%のケースは共通項目の中に1個以上の無回答があるという結果だが、無回答数が3個までのケースだけで全体の7割以上を占めており、大半のケースは無回答による欠損が少ない状態となっている。一方で10個以上の変数において無回答となっている、すなわち共通項目の約1割以上が無回答により欠損扱いとなっているケースも5%ほど存在しており、これらのケースは実際の分析では集計対象外として除かれてしまう可能性が高い。なお、共通項目における無回答数の平均値は2.83個であった。

では、どのような回答者において無回答数は多くなっているのだろうか。次に無回答数と回答者の諸属性との関連を検討する。ここでは回答者の諸属性として、先に用いた「居住地域」「性別」「年齢」の他に、「学歴」「世帯規模」「配偶関係」を加えた。既存研究に基づくならば高学歴の者ほど調査に協力的な態度を示すことから無回答数が少ないと予測される。また今回の調査は「結婚と家族」という研究テーマを設定しているため、家庭環境によって回答すべき設問数が増減する。特に結婚して子どもがいる対象者にはより多くの設問が当てはまることから、このような世帯や婚姻状況に関する属性も回答意欲に影響を与えている可能性がある。

それぞれの属性とカテゴリ化した無回答数のクロス集計を行ったものが表7-6(次ページ)である。個々の属性と無回答数の関係を概括すると以下のようにまとめることができる。

- 回答者の「性別」以外の属性はいずれも1%水準ないし5%水準で無回答数と有意な関連を示している。
- 調査地域は首都圏居住者の方が無回答数は低い。回収率に関しては仙台および近郊の方が高かったことと合わせて解釈すると、首都圏居住者の調査票は配付・回収さえできれば調査票の記入内容は仙台よりもむしろ良好といえる。

- 高齢層、特に 60 歳以上の回答者において無回答数は多い。ただし年齢と無回答数の間には直線的な関連というよりも U 字型に近い関係がある。29 歳以下の若年層においても高齢層ほどではないが無回答数は多い。
- 高学歴の者ほど無回答数は少ない。大学以上のケースをみると約 6 割が無回答数 0 個となっている。
- 世帯規模が大きいから回答の手間が増え無回答数が増える、といった関係はみられない。むしろ 4 人あるいは 5 人以上のケースで無回答数 0 個の割合は高く、単独世帯あるいは 2 人程度の世帯よりも回答状況は良好である。
- 有配偶の方が無回答数は少ない。「結婚と家族」というテーマ設定が未婚・離死別者には自分と関係が無いと判断されて無回答数が多くなっている可能性も考えられる。

表 7-6 回答者の諸属性と無回答数

	0個	1個	2~4個	5個以上	合計
調査地域					
仙台市および近郊	26(32.5%)	17(21.3%)	11(13.8%)	26(32.5%)	80(100%)
首都圏	69(54.8%)	15(11.9%)	25(19.8%)	17(13.5%)	126(100%)
	$\chi^2=17.518, df=3, p<.01$				
性別					
男性	42(43.8%)	13(13.5%)	20(20.8%)	21(21.9%)	96(100%)
女性	53(48.2%)	19(17.3%)	16(14.5%)	22(20.0%)	110(100%)
	$\chi^2=1.924, df=3, p>.05$				
年齢					
29歳以下	10(31.3%)	8(25.0%)	6(18.8%)	8(25.0%)	32(100%)
30~39歳	23(57.5%)	8(20.0%)	4(10.0%)	5(12.5%)	40(100%)
40~49歳	28(71.8%)	3(7.7%)	6(15.4%)	2(5.1%)	39(100%)
50~59歳	19(40.4%)	9(19.1%)	9(19.1%)	1(2.1%)	47(100%)
60~69歳	15(31.3%)	4(8.3%)	11(22.9%)	18(37.5%)	48(100%)
	$\chi^2=31.657, df=12, p<.01$				
学歴					
義務教育	5(26.3%)	1(5.3%)	4(21.2%)	9(47.4%)	19(100%)
高校	36(42.4%)	13(15.3%)	17(20.0%)	19(22.4%)	85(100%)
専門学校・短大・高専	22(51.2%)	7(16.3%)	8(18.6%)	6(14.0%)	43(100%)
大学以上	32(59.3%)	10(18.5%)	7(13.0%)	5(9.3%)	54(100%)
	$\chi^2=18.231, df=9, p<.05$				
世帯規模					
1人	3(37.5%)	3(37.5%)	1(12.5%)	1(12.5%)	8(100%)
2人	8(23.5%)	6(17.6%)	6(17.6%)	14(41.2%)	34(100%)
3人	22(41.5%)	6(11.3%)	13(24.5%)	12(22.6%)	53(100%)
4人	34(59.6%)	9(15.8%)	6(10.5%)	8(14.0%)	57(100%)
5人以上	28(51.9%)	8(14.8%)	10(18.5%)	8(14.8%)	54(100%)
	$\chi^2=22.512, df=12, p<.05$				
配偶関係					
未婚・離死別	14(31.8%)	13(29.5%)	7(15.9%)	10(22.7%)	44(100%)
有配偶	81(50.3%)	19(11.8%)	29(18.0%)	32(19.9%)	161(100%)
	$\chi^2=9.744, df=3, p<.05$				

最後に、無回答数との関連をみてきた諸属性を互いにコントロールしたうえで、本質的に無回答数に影響を与えている属性を明らかにするため、ロジスティック回帰分析を行っ

た結果が表7-7である。ここでは従属変数として「無回答数が平均値である2.83を上回るか否か (0=無回答数2個以下/1=無回答数3個以上)」と「無回答数が少なくとも1個以上あるか否か (0=無回答数0個/1=無回答数1個以上)」の2種類を作成した。

表7-7 無回答数の規定要因 (ロジスティック回帰分析)

	0=DK0~2個/1=DK3個以上		0=DK0個/1=DK1個以上	
	B	SE	B	SE
調査地域 (基準: 仙台)				
首都圏	-0.713	0.376 +	-1.100	0.360 **
性別 (基準: 男性)				
女性	-1.055	0.385 **	-0.328	0.353 n. s.
年齢 (基準: 29歳以下)				
30~39歳	-1.275	0.705 +	-0.863	0.608 n. s.
40~49歳	-1.521	0.767 *	-1.463	0.674 *
50~59歳	-0.499	0.691 n. s.	-0.045	0.637 n. s.
60~69歳	-0.646	0.703 n. s.	-0.005	0.644 n. s.
学歴 (基準: 義務教育)				
高校	-0.640	0.618 n. s.	-0.384	0.656 n. s.
専門学校・短大・高専	-0.258	0.704 n. s.	-0.305	0.726 n. s.
大学以上	-1.859	0.773 *	-0.431	0.736 n. s.
世帯規模 (基準: 1人)				
2人	9.032	21.324 n. s.	2.028	0.997 *
3人	8.596	21.324 n. s.	1.372	0.965 n. s.
4人	8.205	21.324 n. s.	0.761	0.945 n. s.
5人以上	8.104	21.322 n. s.	0.881	0.929 n. s.
配偶関係 (基準: 未婚・離死別)				
有配偶	0.244	0.565 n. s.	-0.822	0.536 n. s.
定数項	-6.974	21.324 n. s.	1.300	1.053 n. s.
-2 Log Likelihood	200.082		233.414	
Chi-Square	42.545 **		43.344 **	
df	14		14	
n=200 ** : p < .01 * : p < .05 + : p < .10 n. s. : p ≥ .10				

回答者の諸属性をすべて統制した多変量解析を行った結果、調査地域と性別、年齢の一部、学歴の一部が有意な効果を示した。調査地域の効果はクロス集計でもみられた通り、首都圏の方が無回答数は少ない。性別は他の属性をコントロールしていない場合には無回答数と関連がみられなかったが、ここでの分析からは、他の属性が同じであれば男性よりも女性の方が無回答数は少ないとすることができる。年齢については29歳以下の層よりも30代、40代の方が無回答数は多くないものの、さらにその上の年齢層ではまた29歳以下と有意な差はなく、クロス集計にあったU字型の関連がここでも示されている。学歴は大卒以上のケースにおいて無回答数が有意に少ないという結果であった。無回答数が1個以上あるか否かという従属変数に関するモデル分析では調査地域の効果が大きく示されている以外は特に強い効果をもつ変数はなく、1~2個程度の無回答は回答者の属性に関係なく発生していると考えられる。

4.3 質問項目ごとの無回答

前節では回答者1人あたりの無回答数について、その傾向と回答者の属性による影響をみてきたが、以降では個別の質問項目ごとに無回答の傾向をみていくことにする。どのような項目において無回答は多いのだろうか、また個別の質問に対する「無回答/有効回答」について回答者の属性はどのような影響をもっているのだろうか。プレテストの調査票は、まず問1において回答者を含めた世帯員全員に関する基本的属性を質問し、それから問2以降の設問が続く形式になっている⁽²⁾。表7-8は、まず問1各問の無回答について、世帯員番号別にみたものと、回答者との続柄別にみたものである⁽³⁾。

表7-8 問1世帯員の基本属性に関する無回答の傾向

世帯員番号・設問別の不詳率		
変数	%	実数
続柄 (1人目)	-	0
性別 (1人目)	-	0
年齢 (1人目)	-	0
配偶関係 (1人目)	-	0
健康状態 (1人目)	-	0
続柄 (2人目)	1.5	3
性別 (2人目)	1.0	2
年齢 (2人目)	1.0	2
配偶関係 (2人目)	2.0	4
健康状態 (2人目)	-	0
続柄 (3人目)	1.2	2
性別 (3人目)	3.0	5
年齢 (3人目)	3.0	5
配偶関係 (3人目)	4.9	8
健康状態 (3人目)	0.6	1
続柄 (4人目)	-	0
性別 (4人目)	4.5	5
年齢 (4人目)	-	0
配偶関係 (4人目)	5.5	6
健康状態 (4人目)	3.6	4
続柄 (5人目)	-	0
性別 (5人目)	1.9	1
年齢 (5人目)	-	0
配偶関係 (5人目)	5.8	3
健康状態 (5人目)	-	0
続柄 (6人目)	3.4	1
性別 (6人目)	-	0
年齢 (6人目)	-	0
配偶関係 (6人目)	3.4	1
健康状態 (6人目)	-	0
続柄 (7人目)	-	0
性別 (7人目)	-	0
年齢 (7人目)	-	0
配偶関係 (7人目)	7.7	1
健康状態 (7人目)	-	0
続柄 (8人目)	20.0	1
性別 (8人目)	-	0
年齢 (8人目)	-	0
配偶関係 (8人目)	20.0	1
健康状態 (8人目)	-	0
続柄 (9人目)	-	0
性別 (9人目)	-	0
年齢 (9人目)	-	0
配偶関係 (9人目)	-	0
健康状態 (9人目)	-	0

(10人以上はすべて非該当)

回答者との続柄・設問別の不詳率		
変数	%	実数
本人 b:性別	-	0
本人 c:年齢	-	0
本人 d:配偶関係	-	0
本人 e:健康状態	1.0	2
配偶者 b:性別	1.3	2
配偶者 c:年齢	-	0
配偶者 d:配偶関係	2.5	4
配偶者 e:健康状態	-	0
子 b:性別	4.7	6
子 c:年齢	2.4	3
子 d:配偶関係	13.4	17
子 e:健康状態	3.1	4
子の配偶者 b:性別	-	0
子の配偶者 c:年齢	-	0
子の配偶者 d:配偶関係	-	0
子の配偶者 e:健康状態	-	0
孫 b:性別	-	0
孫 c:年齢	-	0
孫 d:配偶関係	-	0
孫 e:健康状態	-	0
孫の配偶者 b:性別	-	0
孫の配偶者 c:年齢	-	0
孫の配偶者 d:配偶関係	-	0
孫の配偶者 e:健康状態	-	0
親 b:性別	4.0	2
親 c:年齢	8.0	4
親 d:配偶関係	-	0
親 e:健康状態	-	0
配偶者の親 b:性別	11.8	2
配偶者の親 c:年齢	-	0
配偶者の親 d:配偶関係	5.9	1
配偶者の親 e:健康状態	-	0
祖父母 b:性別	-	0
祖父母 c:年齢	-	0
祖父母 d:配偶関係	-	0
祖父母 e:健康状態	-	0
配偶者の祖父母 b:性別	-	0
配偶者の祖父母 c:年齢	-	0
配偶者の祖父母 d:配偶関係	-	0
配偶者の祖父母 e:健康状態	-	0
兄弟姉妹 b:性別	3.6	1
兄弟姉妹 c:年齢	-	0
兄弟姉妹 d:配偶関係	-	0
兄弟姉妹 e:健康状態	3.6	1
その他 b:性別	-	0
その他 c:年齢	-	0
その他 d:配偶関係	14.3	1
その他 e:健康状態	-	0

まず世帯員番号別に示した無回答の傾向をみると、各世帯員における配偶関係の質問がやや他の項目に比べると無回答が多いことが読みとれる。しかし、記入しなければならない世帯員が多いために後半の世帯員ほど記入内容に無回答が多くなるといった順番や記入量による影響はみられない。前節の無回答数に関する分析でも示されていたが、回答者の世帯規模は調査票への記入意思、意欲にはあまり影響を与えないようである。次に回答者との続柄別に無回答の傾向をみると、子どもの配偶関係が他の続柄に比べて無回答の割合が高い。これは、同居子あるいはまだ幼少期の子どもなど、回答者にとって配偶関係が自明な場合に、そのような区分があてはまらないと考えて回答しないケースが多いことに起因すると思われる。他の続柄に関しては特異な無回答の傾向はみられなかった。

問2以降については、プレテストデータでは付問や回答者を限定する設問の回答者数が少ないため、前節で取り上げた全ての回答者 206 人を対象とする全 19 問 (84 変数) についてみていくこととする⁽⁴⁾。表7-9はこれらの変数について、個別に無回答の頻度と比率を算出して多い順に並べ替えたものである。

表7-9 質問項目ごとの無回答数・比率

問番号	無回答		質問内容
	割合	頻度	
問18 a)	26.7	55	父親の出生年月 (月)
問18 a)	21.8	45	母親の出生年月 (月)
問18 a)	20.9	43	父親の出生年月 (年)
問18 a)	17.5	36	母親の出生年月 (年)
問18 a)	16.0	33	父親の出生年月 (年号)
問18 a)	12.1	25	母親の出生年月 (年号)
問18 c)	9.2	19	父親は介護や看病を必要としているか
問17 a)	7.3	15	金銭的援助の有無 (家族・親族からあなたや配偶者へ)
問18 c)	7.3	15	母親は介護や看病を必要としているか
問6	6.8	14	子どもが欲しいか否か
問13 d)	6.8	14	子どもがいる場合の生活の変化 (性生活)
問7 f)あなた欄	5.3	11	昨年 of 年収
問8 e)あなた欄	5.3	11	家庭内の仕事分担 (簡単な家の修理・修繕)
問13 c)	4.9	10	子どもがいる場合の生活の変化 (就職や昇進の機会)
問13 e)	4.4	9	子どもがいる場合の生活の変化 (自分に対するまわりの見方)
問17 a)	4.4	9	金銭的援助の有無 (あなたや配偶者から家族・親族へ)
問9 c)	3.9	8	家事の外部サービス利用 (出前や仕出しをとる)
問13 b)	3.9	8	子どもがいる場合の生活の変化 (やりたいことをやる自由)
問13 a)	3.4	7	子どもがいる場合の生活の変化 (生活水準)
問16	3.4	7	一週間の希望就労時間
問8 b)あなた欄	2.9	6	家庭内の仕事分担 (洗濯)
問8 f)あなた欄	2.9	6	家庭内の仕事分担 (家計の管理)
問9 d)	2.9	6	家事の外部サービス利用 (家のお掃除サービスをたのむ)
問9 f)	2.9	6	家事の外部サービス利用 (ホーム・ヘルパーに身の世話をたのむ)
問10 p)	2.9	6	意識 (成人した子どもが経済的に困っている時、親は援助すべきだ)
問13 f)	2.9	6	子どもがいる場合の生活の変化 (心のやすらぎ)
問13 g)	2.9	6	子どもがいる場合の生活の変化 (生活全般の満足度)
問14 d)あなた欄	2.9	6	一週間の平均勤労時間
問18 b)	2.9	6	母親は健在か否か
問20	2.9	6	婚姻状態

表7-9 質問項目ごとの無回答数・比率(つづき)

問番号	無回答		質問内容
	割合	頻度	
問8 a)あなた欄	2.4	5	家庭内の仕事分担(料理や食事の後片づけ)
問8 c)あなた欄	2.4	5	家庭内の仕事分担(部屋の掃除)
問8 d)あなた欄	2.4	5	家庭内の仕事分担(食料品・日用品の買物)
問9 a)	2.4	5	家事の外部サービス利用(スーパーやコンビニで総菜や弁当を買う)
問9 b)	2.4	5	家事の外部サービス利用(外食をする)
問9 e)	2.4	5	家事の外部サービス利用(ワイシャツなどをクリーニングに出す)
問18 b)	2.4	5	父親は健在か否か
問7 c)あなた欄	1.9	4	回答者の在学・卒業・中退の区分
問10 r)	1.9	4	意識(独身の女性は、異性と性交渉をもってもかまわない)
問12 a)	1.9	4	相談の有無(仕事・職場について)
問12 c)	1.9	4	相談の有無(親子関係について)
問19 a)	1.9	4	15歳時に父親は仕事についていたか
問10 f)	1.5	3	意識(男は子どもがいなくても、充実した人生をおくることができる)
問10 h)	1.5	3	意識(母親が勤めると、就学前の子どもによく影響をあたえることが多い)
問10 j)	1.5	3	意識(夫婦ともにフルタイムで働いているなら、家事は平等にやるべきだ)
問10 k)	1.5	3	意識(女は子どもがいなくても、充実した人生をおくることができる)
問10 l)	1.5	3	意識(父親が仕事ばかりしているのは、子どもにとってよくない)
問10 m)	1.5	3	意識(働き口が少ない時、女よりも男が就職の優先権をもつべきだ)
問10 n)	1.5	3	意識(親のめんどうをみるのは、長男の義務である)
問10 o)	1.5	3	意識(親が世話を必要とする時、息子よりも娘がめんどうをみるべきだ)
問10 q)	1.5	3	意識(親が経済的に困っている時、成人した子どもは親を助けるべきだ)
問10 s)	1.5	3	意識(一般的に言って、人は信用できる)
問11 a)	1.5	3	現在の心理的状況(頼れる人がたくさんいる)
問11 b)	1.5	3	現在の心理的状況(何をするのもむなし)
問11 c)	1.5	3	現在の心理的状況(ひとりぼっちで寂しい)
問11 d)	1.5	3	現在の心理的状況(心から信頼できる人がたくさんいる)
問11 e)	1.5	3	現在の心理的状況(他人から拒絶された気持ちによくなる)
問11 f)	1.5	3	現在の心理的状況(親しいと思える人がいる)
問12 b)	1.5	3	相談の有無(結婚・恋愛について)
問12 d)	1.5	3	相談の有無(子どもの教育・子育てについて)
問19 a)	1.5	3	15歳時に母親は仕事についていたか
問1 e)	1.0	2	世帯員1人目(回答者)の健康状態
問3	1.0	2	居住形態(住宅の種類)
問7 d)あなた欄	1.0	2	15歳までの主な居住地
問10 e)	1.0	2	意識(妻が夫より収入が高くと、夫婦の関係が悪くなることが多い)
問10 g)	1.0	2	意識(男は結婚しなくても、充実した人生をおくることができる)
問1 d)	0.5	1	世帯員1人目(回答者)の配偶関係
問7 a)あなた欄	0.5	1	回答者の出生年月(月)
問7 b)あなた欄	0.5	1	回答者の最後に行った学校
問10 a)	0.5	1	意識(女は結婚しなくても、充実した人生をおくることができる)
問10 b)	0.5	1	意識(結婚の主な目的は、子どもをもつことである)
問10 c)	0.5	1	意識(結婚せずに、男女がいっしょに暮らしてもよい)
問10 d)	0.5	1	意識(子どもがいても、不幸せな結婚なら離婚してもよい)
問10 i)	0.5	1	意識(男が家族を養い、女は家庭をまもるのが、みんなにとってよい)
問1 b)	0.0	0	世帯員1人目(回答者)の性別
問1 c)	0.0	0	世帯員1人目(回答者)の年齢
問2	0.0	0	同居世帯員数
問4	0.0	0	部屋数
問5	0.0	0	居住年数
問7 a)あなた欄	0.0	0	回答者の出生年月(年号)
問7 a)あなた欄	0.0	0	回答者の出生年月(年)
問14 a)あなた欄	0.0	0	現在の就業状態
問14 b)あなた欄	0.0	0	現在の雇用形態
問14 c)あなた欄	0.0	0	職種
平均無回答比率	3.38		

各質問項目における無回答比率の平均値 3.38%を上回って無回答が出現した 20 変数について質問内容をみていくと、まず両親に関する質問において無回答が頻出していることがわかる。父親については4分の1以上のケースにおいて、母親についても5分の1程度のケースにおいて出生年月に基づく年齢の算出が不可能な状態となっている。既存研究においても指摘されていたプライバシーに関係すると思われる質問においても無回答は多い。金銭的援助の有無や昨年の年収など、経済面に関する質問の無回答はいずれも平均値を上回っていた。その他の項目としては、子どもに関する意識や態度を尋ねた質問に無回答が多くみられた。これは調査の対象年齢が18歳から69歳までと幅広いため、質問によっては既に子どもが成人した後である場合が多い高齢層の回答者には答えづらい・想定しにくいものがあった可能性がある。また「家庭内の仕事分担（簡単な家の修理・修繕）」が平均値を上回る無回答率であったが、これは回答選択肢「ほぼ毎日・週に3～4回・週に1～2回・月に1～3回・ほとんどしない」が「家の修理・修繕」という項目には適していなかったことが考えられる⁽⁵⁾。個別の質問項目における無回答の傾向としては、具体的な数値を記入させる質問、金銭関係の質問、回答者によっては想定しにくい質問に無回答は多く出現し、一方で回答者本人の出生年月や学歴、就業状態など基本的な属性や意識に関する質問にはほとんど無回答は見られない。

次に、これら高い無回答率を示している個別の質問項目について、回答者の属性による影響、すなわち、どのような人々が個々の質問において無回答になりやすいのかを検討する。表7-9でみたとおり、今回のプレテストでは両親の出生年月に関する質問の無回答が極めて多い。そこで、父親・母親それぞれに関する出生年月の「年号」「年」「月」のいずれかに無回答があつて年齢を算出できないケースがどの程度生じているのかをみたものが表7-10である。

表7-10 回答者の諸属性別にみた両親の年齢算出ができないケース

	父親の年齢が算出 できないケース	母親の年齢が算出 できないケース
調査地域		
仙台市および近郊	29 (36.3%)	21 (26.3%)
首都圏	27 (21.4%)	25 (19.8%)
性別		
男性	31 (32.3%)	23 (24.0%)
女性	25 (22.7%)	23 (20.0%)
年齢		
29歳以下	7 (21.9%)	7 (21.9%)
30～39歳	8 (20.0%)	6 (15.0%)
40～49歳	5 (12.8%)	2 (5.1%)
50～59歳	15 (31.9%)	11 (23.4%)
60～69歳	21 (43.8%)	20 (41.7%)
学歴		
義務教育	11 (57.9%)	10 (52.6%)
高校	23 (27.1%)	18 (21.2%)
専門学校・短大・高専	10 (23.3%)	8 (18.6%)
大学以上	9 (16.7%)	7 (13.0%)

表7-10 回答者の諸属性別にみた両親の年齢算出ができないケース（つづき）

	父親の年齢が算出 できないケース	母親の年齢が算出 できないケース
世帯規模		
1人	2(25.0%)	2(25.0%)
2人	11(32.4%)	12(35.3%)
3人	20(37.7%)	14(26.4%)
4人	9(15.8%)	9(15.8%)
5人以上	14(25.9%)	9(16.7%)
配偶関係		
未婚・離死別	9(20.5%)	9(20.5%)
有配偶	46(28.6%)	36(22.4%)

世帯規模を除く回答者の属性と両親の年齢が算出できないケースの出現には一定の関連がみられる。調査地域では、無回答数の傾向と同様に仙台よりも首都圏の方が良好な記入状態となっている。また女性よりも男性において無回答が多く両親の年齢が計算できないケースが頻出していることも無回答数に関する分析結果と類似している。年齢については、若年層と高齢層で記入状態が良くないことが示されており、特に高齢層では無回答が多い。これは高齢の回答者の場合、両親が既に死亡している場合が多く、また高齢者にとって回顧的質問の回答が難しいことに起因しているものと思われる。現状のデータでは親の年齢を含んだ世代間の分析において若年層が過度に多くなるという標本の偏りがあることに留意すべきであろう。同じような指摘は学歴についても言うことができる。ここで示したように回答者が義務教育の場合、半数以上の親の年齢は算出することができない。分析結果が高学歴の回答者を対象としたものに偏る可能性がある。

5 考察

本章では、平成15年11月に首都圏と仙台市において実施された「結婚と家族に関する国際比較調査」のプレテストに関して、(1)回収率、(2)調査票における無回答数、(3)個別の質問項目における無回答の傾向および発生原因を検討した。それぞれの分析から明らかになったことと合わせて、回収率を向上させる、あるいは無回答を減らす具体的な方法について考察する。

(1) 回収率

○首都圏よりも仙台の方が、男性よりも女性の方が、若年層よりも高齢層の方が回収率は高い。

○欠票理由は両地域とも拒否、一時不在の順となっているが、仙台よりも首都圏の女性に拒否が多くみられた。また首都圏の若年男性は不在による調査不能が多い。

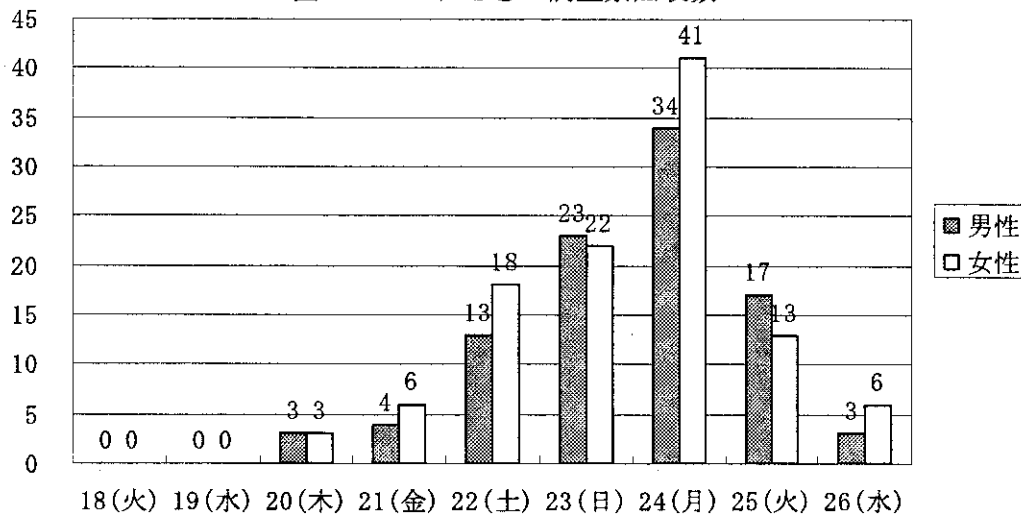
これらの結果はいずれも既存研究において指摘されてきたとおりであるが、ではどのようにすれば回収率を向上させることができるだろうか。まず、調査対象者の「拒否」に対しては調査員による調査目的と内容の説明は当然のこととして、個人情報取り扱いについても十分説明を行う必要があるだろう。また、本研究のような国際的かつ大規模なプロジェクトの場合には、調査の背景や参加機関についても分かりやすく解説して調査主体の

信頼性を高めるような調査依頼状を作成することも検討課題として提起したい。

一時不在については既存研究においても指摘されているように近年みられる回収率低下傾向の大きな要因であるが、できるだけ接触機会がもてるよう調査員が行動する以外に根本的な解決策はない。本調査のように留置法を用いる際には、調査対象者にどうしても接触できない場合には調査票をポスト投函して配付し、調査員による回収か郵送による回収か選択肢を設けることも考慮する必要がある。また不在通知票の積極的な使用、調査対象者との連絡の緊密化も望まれる。

図7-1は、プレテストの調査期間における日ごとの調査票回収数を示したものである。訪問して調査票を回収できた日は11月22日(土)から24日(月)(24日は振替休日)に集中しており、本調査では最低でも2回ないし3回ほど週末を挟んだ調査日程が必要であろう。それと同時に、調査員にも週末に重点を置いた行動(特に調査票回収時において)を指示した方がよい。

図7-1 日ごとの調査票回収数



さらに訪問時間との関連をみるために、調査票が回収できた対象者だけに限って、平日・休日それぞれ何時くらいの訪問で調査票を回収したのかを、調査地域・性別にみたものが表7-11である。

表7-11 調査票を回収した日時

	仙 台				首 都 圏			
	男性		女性		男性		女性	
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日
9時～	3	3	1	1	2	3	5	3
10時～	1		4	4	10	10	3	7
11時～			2	2	1	2		8
12時～	1	7	1	1	1	5		3
13時～		4	1	5		1		3
14時～		5		7	2	1		
15時～	2	2		6				
16時～		5		4	2	2	2	4
17時～		5		7	1	2	2	3
18時～	1	3		5	9	4	6	1
19時～			1		1	2	6	5
20時～		2	1			1		1

2つの調査地域を比較すると、仙台では休日の午前中から夕方まで幅広い時間帯に調査票を回収しているのに対して、首都圏では平日・休日とも午前中と夜間に二極化していることがわかる。週末に調査票を回収する際にも、首都圏では昼間に断続的に訪問するよりも午前中ないし夜間に訪問したほうが回収できる可能性は高いと考えられる。もちろん、調査不能の理由は不在によるだけではなく、今回のプレテストでも調査内容やプライバシーに関係した調査拒否が最も多かったことから、このように接触する機会を増やすことが実際の回収率をどのくらい向上させるのかは分からない。しかし、坂元(2001)などの既存研究においても都市部における一時不在の増加が回収率を低下させていることは指摘されており、本調査の実施方法における改善可能な点としてこのような訪問日時のパターンも考慮する必要があるといえよう。

(2) 調査票の無回答数

- 全ての回答者を対象とした共通質問項目 19 問 (84 変数) について無回答数をカウントしたところ、平均して3個弱の無回答が出現していることが示された。8割以上のケースにおいて、無回答数は5個以下となっている。
- 多変量をコントロールすると、男性よりも女性の方が無回答数は少ない。また 29 歳以下
- 下の層よりも 30 代、40 代において無回答数は少なくなるものの、さらにその上の年齢層では無回答数が多くなる。学歴は大卒以上のケースにおいて無回答数が少ない。

無回答になる原因は、記入ミスや回答拒否、記入の仕方がわからない、質問の意味が分からない、質問された事柄について知らない、などいくつか考えることができるが、調査票の設計段階においては、できるだけ多くの人に理解および回答可能な設問を作成することが重要となる。また留置法による調査実施時には、調査票回収時に調査員が記入状態を点検する、あるいは内容に不明な点があった場合は対象者に質問してもらう、などの対処が必要であろう。特に高齢層の場合は健康上の理由から調査負担が大きく、調査に協力しにくいという指摘 (Jay et al. 1993) もあることから、回収時に無回答が多かった場合には協力可能かどうか尋ねた上で回答をサポートするなどの柔軟な対応が求められる。

(3) 個別の質問項目に対する無回答

- 具体的な数値を記入させる質問項目、金銭関係の質問項目、子どもの有無や子どもがいた場合を想定させる質問項目などに無回答が多く見られた。
- 特に無回答の多かった両親の出生年月に着目すると、年号・年・月のいずれかが欠損していることによって年齢が算出できないケースが、父親で 27.2%、母で 22.3%存在する。特に高齢層あるいは低学歴層で算出不能は多く、分析において対象ケースに偏りが生じる危険性がある。

両親の出生年月は、具体的な数値を記入させる質問であることと、懐古的データであることが重なって高い無回答率を示していた。回答拒否によるものと思われる質問項目は無

回答を低減させることは難しいが、形式上の改善で有効回答を増やすことができる項目については、具体的な数値記入を減らす、または選択回答方式にするなどの対処が必要と思われる。

また、回答者の属性との関連から、個別の質問項目における無回答は属性に関係なくランダムに発生しているわけではなく、例えば高齢層や低学歴の者において無回答が多い、といったように特定の傾向があることが示された。得られた標本の分析結果を一般化するためには、無回答をできるだけ減らして代表性のあるデータを収集することが重要である。

本調査に先立ってプレテストを実施したことにより、調査票の設計から実査に至る各段階において数多くの改善すべき点が発見された。ここで得られた結果に十分留意して調査票の設計および調査の実施方法を検討する必要がある。

注

- (1)問7（本人のきょうだい数）も全ての回答者に共通する項目であるが、ここでは無回答数を算出する項目には含めていない。これは、兄弟姉妹がいない場合はそれぞれの回答欄に0を書き込むよう指示しているため、記入がない場合は無回答扱いとなるが、いずれかの欄に記入がある場合は他の欄に0を代入するよう処理することで、通常分析には有効回答として含めることができるためである。
- (2)プレテストにおいて使用された調査票の内容・詳細については〇ページ以降を参照のこと。
- (3)続柄別にみた無回答の集計では、続柄が無回答だったケースを除外している。
- (4)プレテスト調査票に含まれている全ての変数の無回答数・比率については **Appendix** を参照のこと。
- (5)別に実施したグループ・インタビューでは、「簡単な家の修理・修繕」以外にも「家計の管理」について「ほぼ毎日・週に3~4回・週に1~2回・月に1~3回・ほとんどしない」という回答選択肢では答えづらいという意見が出された。家事行動のなかには、頻度形式で質問することが適さないものもあることに留意する必要がある。

文献

- 飽戸弘. 1987『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社.
- Chromy, J. and D. Horvitz 1978 "The Use of Monetary Incentives in National Assessment Household Surveys" *Journal of the American Statistical Association* Vol.73:473-478.
- DeMaio, T. J. 1980 "Refusals: Who, Where and Why" *Public Opinion Quarterly* vol.44: 223-233.
- Durbin, J and Stuart, A. 1951 "Differences in Response Rates of Experienced and Inexperienced Interviewers" *Journal of the Royal Statistical Society* vol.114 (2):

163-206.

- Graves, R.M. 1989 "Research on Survey Data Quality" *Public Opinion Quarterly* vol.51: 156-172.
- 岩井紀子・稲葉太一. 2001 「第2回予備調査の回収率ならびに欠票の分析」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所『日本版 General Social Survey(JGSS)第2回予備調査基礎集計表・コードブック』Pp.13-22.
- Jay, G.M. et al. 1993 "Patterns of Nonresponse in a National Survey of Elderly Japanese" *Journal of Gerontology: Social Sciences* vol48(3):143-152.
- 村上あかね. 2001 「郵送調査における無回答の発生：質問の内容・形式と回答者の属性に注目して」川端亮・田中重人[編]『吹田市民のコミュニティ・ネットワークに関する調査報告書』大阪大学大学院人間科学研究科 Pp.17-27.
- Pavalco, R. M. and Lutterman, K. G. 1973 "Characters of Willing and Reluctant Respondents" *Pacific Sociological Review* vol.16(4):463-476.
- Robins, Lee N. 1963 "The Reluctant Respondent" *Public Opinion Quarterly* Vol.27:276:286.
- 坂元慶行. 2001 『日本人の国民性調査』：社会調査研究のある最前線』『理論と方法』vol.16(1):75-88.
- 杉山明子. 1984 『社会調査の基本』朝倉書店.
- 杉澤秀博. 1999 「無回答者はどんな人か」『中央調査報』vol.498:4499-4500.
- 社団法人マーケティング・リサーチ協会. 1998 『1998年版 市場調査白書』社)マーケティング・リサーチ協会.
- Synodinos, N. E. and Shigeru Yamada. 2000 "Response Rate Trends in Japanese Surveys" *International Journal of Public Opinion Research* vol.12:48-72.
- 玉野和志. 2003 「サーベイ調査の困難と社会学の課題」『社会学評論』vol.53(4):537-551.
- 田中重人. 2001 「無効回答の発生」清水新二[編]『現代日本の家族意識』日本家族社会学会全国家族調査研究会 Pp.155-179.
- 山田茂. 1988 「世論調査の実施環境の変化について」『統計学』vol.55:15-35.

Appendix

プレテスト全変数の無回答数・無回答率

変数名	内容	%	頻度	n
q02	問2 同居家族人数	0.0	0	206
q03	問3 住宅形態	1.0	2	206
q04	問4 部屋数	0.0	0	206
q05	問5 居住年数	0.0	0	206
q06	問6 出産希望の有無	6.8	14	206
q06a	問6a 欲しい子どもの数	29.4	15	51
q06b	問6b 子どもの欲しい時期	29.4	15	51
q0701a1	問7 あなた a:出生年月(年号)	0.0	0	206
q0701a2	問7 あなた a:出生年月(年)	0.0	0	206
q0701a3	問7 あなた a:出生年月(月)	0.5	1	206
q0701b	問7 あなた b:最終学歴	0.5	1	206
q0701c	問7 あなた c:在学・卒業	1.9	4	206
q0701c21	問7 あなた c:卒業年月(年号)	7.4	14	189
q0701c22	問7 あなた c:卒業年月(年)	9.0	17	189
q0701c23	問7 あなた c:卒業年月(月)	10.1	19	189

プレテスト全変数の無回答数・無回答率（つづき）

変数名	内容	%	頻度	n
q0701d	問7 あなた d:15歳までの居住地	1.0	2	206
q0701e1	問7 あなた e:兄の数	35.9	74	206
q0701e2	問7 あなた e:姉の数	31.1	64	206
q0701e3	問7 あなた e:弟の数	31.1	64	206
q0701e4	問7 あなた e:妹の数	35.4	73	206
q0701f	問7 あなた f:昨年度の年収	5.3	11	206
q0702a1	問7 配偶者 a:出生年月(年号)	0.6	1	161
q0702a2	問7 配偶者 a:出生年月(年)	1.2	2	161
q0702a3	問7 配偶者 a:出生年月(月)	1.9	3	161
q0702b	問7 配偶者 b:最終学歴	0.6	1	161
q0702c	問7 配偶者 c:在学・卒業	5.0	8	161
q0702c21	問7 配偶者 c:卒業年月(年号)	10.1	16	158
q0702c22	問7 配偶者 c:卒業年月(年)	15.8	25	158
q0702c23	問7 配偶者 c:卒業年月(月)	14.6	23	158
q0702d	問7 配偶者 d:15歳までの居住地	1.9	3	161
q0702e1	問7 配偶者 e:兄の数	32.9	53	161
q0702e2	問7 配偶者 e:姉の数	30.4	49	161
q0702e3	問7 配偶者 e:弟の数	28.6	46	161
q0702e4	問7 配偶者 e:妹の数	39.1	63	161
q0702f	問7 配偶者 f:昨年度の年収	5.6	9	161
q0801a	問8 家庭内の仕事 あなた a	2.4	5	206
q0801b	問8 家庭内の仕事 あなた b	2.9	6	206
q0801c	問8 家庭内の仕事 あなた c	2.4	5	206
q0801d	問8 家庭内の仕事 あなた d	2.4	5	206
q0801e	問8 家庭内の仕事 あなた e	5.3	11	206
q0801f	問8 家庭内の仕事 あなた f	2.9	6	206
q0802a	問8 家庭内の仕事 配偶者 a	1.3	2	161
q0802b	問8 家庭内の仕事 配偶者 b	1.9	3	161
q0802c	問8 家庭内の仕事 配偶者 c	2.5	4	161
q0802d	問8 家庭内の仕事 配偶者 d	1.3	2	161
q0802e	問8 家庭内の仕事 配偶者 e	3.2	5	161
q0802f	問8 家庭内の仕事 配偶者 f	3.8	6	161
q0803a	問8 家庭内の仕事 親や祖父母 a	7.2	5	69
q0803b	問8 家庭内の仕事 親や祖父母 b	7.2	5	69
q0803c	問8 家庭内の仕事 親や祖父母 c	8.7	6	69
q0803d	問8 家庭内の仕事 親や祖父母 d	7.2	5	69
q0803e	問8 家庭内の仕事 親や祖父母 e	8.7	6	69
q0803f	問8 家庭内の仕事 親や祖父母 f	8.7	6	69
q0804a	問8 家庭内の仕事 子どもや孫 a	10.2	13	128
q0804b	問8 家庭内の仕事 子どもや孫 b	12.5	16	128
q0804c	問8 家庭内の仕事 子どもや孫 c	10.9	14	128
q0804d	問8 家庭内の仕事 子どもや孫 d	11.7	15	128
q0804e	問8 家庭内の仕事 子どもや孫 e	10.9	14	128
q0804f	問8 家庭内の仕事 子どもや孫 f	13.3	17	128
q09a	問9 家事の外部サービス利用頻度a	2.4	5	206
q09b	問9 家事の外部サービス利用頻度b	2.4	5	206
q09c	問9 家事の外部サービス利用頻度c	3.9	8	206
q09d	問9 家事の外部サービス利用頻度d	2.9	6	206
q09e	問9 家事の外部サービス利用頻度e	2.4	5	206
q09f	問9 家事の外部サービス利用頻度f	2.9	6	206

プレテスト全変数の無回答数・無回答率（つづき）

変数名	内容	%	頻度	n
q10a	問10 家族に関する意識a	0.5	1	206
q10b	問10 家族に関する意識b	0.5	1	206
q10c	問10 家族に関する意識c	0.5	1	206
q10d	問10 家族に関する意識d	0.5	1	206
q10e	問10 家族に関する意識e	1.0	2	206
q10f	問10 家族に関する意識f	1.5	3	206
q10g	問10 家族に関する意識g	1.0	2	206
q10h	問10 家族に関する意識h	1.5	3	206
q10i	問10 家族に関する意識i	0.5	1	206
q10j	問10 家族に関する意識j	1.5	3	206
q10k	問10 家族に関する意識k	1.5	3	206
q10l	問10 家族に関する意識l	1.5	3	206
q10m	問10 家族に関する意識m	1.5	3	206
q10n	問10 家族に関する意識n	1.5	3	206
q10o	問10 家族に関する意識o	1.5	3	206
q10p	問10 家族に関する意識p	2.9	6	206
q10q	問10 家族に関する意識q	1.5	3	206
q10r	問10 家族に関する意識r	1.9	4	206
q10s	問10 家族に関する意識s	1.5	3	206
q11a	問11 現在の心理的状況a	1.5	3	206
q11b	問11 現在の心理的状況b	1.5	3	206
q11c	問11 現在の心理的状況c	1.5	3	206
q11d	問11 現在の心理的状況d	1.5	3	206
q11e	問11 現在の心理的状況e	1.5	3	206
q11f	問11 現在の心理的状況f	1.5	3	206
q12a1	問12 相談の有無a	1.9	4	206
q12a2	問12 相談の相手a	3.8	4	104
q12b1	問12 相談の有無b	1.5	3	206
q12b2	問12 相談の相手b	6.1	3	49
q12c1	問12 相談の有無c	1.9	4	206
q12c2	問12 相談の相手c	6.3	5	76
q12d1	問12 相談の有無d	1.5	3	206
q12d2	問12 相談の相手d	3.5	3	86
q13a	問13 子どもによる生活の変化a	3.4	7	206
q13b	問13 子どもによる生活の変化b	3.9	8	206
q13c	問13 子どもによる生活の変化c	4.9	10	206
q13d	問13 子どもによる生活の変化d	6.8	14	206
q13e	問13 子どもによる生活の変化e	4.4	9	206
q13f	問13 子どもによる生活の変化f	2.9	6	206
q13g	問13 子どもによる生活の変化g	2.9	6	206
q1401a	問14 【あなた】 a:就労状況	0.0	0	206
q1401b	問14 【あなた】 b:就労形態	0.0	0	206
q1401c	問14 【あなた】 c:職種	0.0	0	206
q1401d	問14 【あなた】 d:平均勤務時間	2.9	6	206
q1401e	問14 【あなた】 e:仕事を始めた時期	9.9	19	192
q1401f	問14 【あなた】 f:仕事を終了した時期	10.4	20	192
q1402a	問14 【配偶者】 a:就労状況	0.6	1	161
q1402b	問14 【配偶者】 b:就労形態	0.6	1	161
q1402c	問14 【配偶者】 c:職種	1.9	3	161
q1402d	問14 【配偶者】 d:平均勤務時間	1.2	2	161
q1402e	問14 【配偶者】 e:仕事を始めた時期	3.2	5	158
q1402f	問14 【配偶者】 f:仕事を終了した時期	3.8	6	158

プレテスト全変数の無回答数・無回答率（つづき）

変数名	内容	%	頻度	n
q15	問15 仕事満足度	0.8	1	132
q16	問16 希望就労時間	3.4	7	206
q1701a	問17a 金銭的やりとり（あなた・配偶者から）	4.4	9	206
q1701b	問17b 金額（あなた・配偶者から）	32.1	17	53
q1701c	問17c 相手（あなた・配偶者から）	28.3	15	53
q1702a	問17a 金銭的やりとり（家族・親戚から）	7.3	15	206
q1702b	問17b 金額（家族・親戚から）	36.9	24	65
q1702c	問17c 相手（家族・親戚から）	36.9	24	65
q1801a1	問18 あなたの父親 a:出生年月（年号）	16.0	33	206
q1801a2	問18 あなたの父親 a:出生年月（年）	20.9	43	206
q1801a3	問18 あなたの父親 a:出生年月（月）	26.7	55	206
q1801b	問18 あなたの父親 b:健在か	2.4	5	206
q1801b1	問18 あなたの父親 a:死亡年月（年号）	23.1	24	104
q1801b2	問18 あなたの父親 a:死亡年月（年）	26.9	28	104
q1801b3	問18 あなたの父親 a:死亡年月（月）	27.9	29	104
q1801c	問18 あなたの父親 c:介護の要否	9.2	19	206
q1801d	問18 あなたの父親 d:同居形態	19.2	23	120
q1801e	問18 あなたの父親 e:距離	20.8	25	120
q1801f	問18 あなたの父親 f:接触頻度	19.2	23	120
q1801g	問18 あなたの父親 g:関係	20.0	24	120
q1801h	問18 あなたの父親 h:学歴	20.0	24	120
q1802a1	問18 あなたの母親 a:出生年月（年号）	12.1	25	206
q1802a2	問18 あなたの母親 a:出生年月（年）	17.5	36	206
q1802a3	問18 あなたの母親 a:出生年月（月）	21.8	45	206
q1802b	問18 あなたの母親 b:健在か	2.9	6	206
q1802b1	問18 あなたの母親 a:死亡年月（年号）	24.6	17	69
q1802b2	問18 あなたの母親 a:死亡年月（年）	27.5	19	69
q1802b3	問18 あなたの母親 a:死亡年月（月）	31.9	22	69
q1802c	問18 あなたの母親 c:介護の要否	7.3	15	206
q1802d	問18 あなたの母親 d:同居形態	10.7	16	149
q1802e	問18 あなたの母親 e:距離	14.1	21	149
q1802f	問18 あなたの母親 f:接触頻度	12.1	18	149
q1802g	問18 あなたの母親 g:関係	12.1	18	149
q1802h	問18 あなたの母親 h:学歴	12.8	19	149
q1803a1	問18 配偶者の父親 a:出生年月（年号）	24.8	40	161
q1803a2	問18 配偶者の父親 a:出生年月（年）	31.1	50	161
q1803a3	問18 配偶者の父親 a:出生年月（月）	38.5	62	161
q1803b	問18 配偶者の父親 b:健在か	7.5	12	161
q1803b1	問18 配偶者の父親 a:死亡年月（年号）	35.7	35	98
q1803b2	問18 配偶者の父親 a:死亡年月（年）	39.8	39	98
q1803b3	問18 配偶者の父親 a:死亡年月（月）	41.8	41	98
q1803c	問18 配偶者の父親 c:介護の要否	14.9	24	161
q1803d	問18 配偶者の父親 d:同居形態	29.1	25	86
q1803e	問18 配偶者の父親 e:距離	29.1	25	86
q1803f	問18 配偶者の父親 f:接触頻度	29.1	25	86
q1803g	問18 配偶者の父親 g:関係	29.1	25	86
q1803h	問18 配偶者の父親 h:学歴	31.4	27	86
q1804a1	問18 配偶者の母親 a:出生年月（年号）	22.4	36	161
q1804a2	問18 配偶者の母親 a:出生年月（年）	28.0	45	161
q1804a3	問18 配偶者の母親 a:出生年月（月）	34.8	56	161
q1804b	問18 配偶者の母親 b:健在か	5.6	9	161
q1804b1	問18 配偶者の母親 a:死亡年月（年号）	36.4	20	55
q1804b2	問18 配偶者の母親 a:死亡年月（年）	41.8	23	55
q1804b3	問18 配偶者の母親 a:死亡年月（月）	41.8	23	55

プレテスト全変数の無回答数・無回答率（つづき）

変数名	内容	%	頻度	n
q1804c	問18 配偶者の母親 c:介護の要否	9.3	15	161
q1804d	問18 配偶者の母親 d:同居形態	12.6	15	119
q1804e	問18 配偶者の母親 e:距離	12.6	15	119
q1804f	問18 配偶者の母親 f:接触頻度	13.4	16	119
q1804g	問18 配偶者の母親 g:関係	13.4	16	119
q1804h	問18 配偶者の母親 h:学歴	20.2	24	119
q1901a	問19 あなたの父親 a:就労の有無	1.9	4	206
q1901b	問19 あなたの父親 b:就労形態	11.2	23	206
q1901c	問19 あなたの父親 c:職種	13.1	27	206
q1902a	問19 あなたの母親 a:就労の有無	1.5	3	206
q1902b	問19 あなたの母親 b:就労形態	43.2	89	206
q1902c	問19 あなたの母親 c:職種	45.1	93	206
q20	問20 婚姻状況	2.9	6	206
q21a	問21 初婚年月 (年号)	5.2	9	174
q21b	問21 初婚年月 (年)	5.2	9	174
q21c	問21 初婚年月 (月)	5.7	10	174
q22	問22 同棲経験の有無	4.0	7	174
q22a	問22a 同棲相手との結婚の有無	26.9	7	26
q23	問23 不妊治療の有無	6.3	11	174
q23a	問23a 不妊治療の内容	68.4	13	19
q24	問24 配偶者との別離について	5.7	9	159
q25a	問25 配偶者との意見の食い違いa	4.4	7	159
q25b	問25 配偶者との意見の食い違いb	4.4	7	159
q25c	問25 配偶者との意見の食い違いc	4.4	7	159
q25d	問25 配偶者との意見の食い違いd	5.0	8	159
q25e	問25 配偶者との意見の食い違いe	5.0	8	159
q25f	問25 配偶者との意見の食い違いf	5.0	8	159
q25g	問25 配偶者との意見の食い違いg	7.5	12	159
q25h	問25 配偶者との意見の食い違いh	9.4	15	159
q25i	問25 配偶者との意見の食い違いi	5.0	8	159
q26	問26 子ども数	4.6	8	174
q2701a	問27 第1子 a:性別	1.3	2	152
q2701b1	問27 第1子 b:出生年月 (年号)	1.3	2	152
q2701b2	問27 第1子 b:生年月日 (年)	2.0	3	152
q2701b3	問27 第1子 b:生年月日 (月)	3.3	5	152
q2701c	問27 第1子 c:健在か	1.3	2	152
q2701d	問27 第1子 d:配偶関係	1.3	2	152
q2702a	問27 第2子 a:性別	1.6	2	123
q2702b1	問27 第2子 b:出生年月 (年号)	1.6	2	123
q2702b2	問27 第2子 b:生年月日 (年)	1.6	2	123
q2702b3	問27 第2子 b:生年月日 (月)	1.6	2	123
q2702c	問27 第2子 c:健在か	1.6	2	123
q2702d	問27 第2子 d:配偶関係	1.6	2	123
q2703a	問27 第3子 a:性別	7.4	2	27
q2703b1	問27 第3子 b:出生年月 (年号)	0.0	0	27
q2703b2	問27 第3子 b:生年月日 (年)	0.0	0	27
q2703b3	問27 第3子 b:生年月日 (月)	0.0	0	27
q2703c	問27 第3子 c:健在か	0.0	0	27
q2703d	問27 第3子 d:配偶関係	0.0	0	27
q2704a	問27 第4子 a:性別	0.0	0	3
q2704b1	問27 第4子 b:出生年月 (年号)	0.0	0	3
q2704b2	問27 第4子 b:生年月日 (年)	0.0	0	3
q2704b3	問27 第4子 b:生年月日 (月)	0.0	0	3
q2704c	問27 第4子 c:健在か	0.0	0	3
q2704c1	問27 第4子 c:死亡年月 (年号)	0.0	0	0
q2704c2	問27 第4子 c:死亡年月 (年)	0.0	0	0
q2704c3	問27 第4子 c:死亡年月 (月)	0.0	0	0
q2704d	問27 第4子 d:配偶関係	0.0	0	3

プレテスト全変数の無回答数・無回答率 (つづき)

変数名	内容	%	頻度	n
q2705a	問27 (第5子) a:性別	0.0	0	0
q2705b1	問27 (第5子) b:出生年月 (年号)	0.0	0	0
q2705b2	問27 (第5子) b:生年月日 (年)	0.0	0	0
q2705b3	問27 (第5子) b:生年月日 (月)	0.0	0	0
q2705c	問27 (第5子) c:健在か	0.0	0	0
q2705c1	問27 (第5子) c:死亡年月 (年号)	0.0	0	0
q2705c2	問27 (第5子) c:死亡年月 (年)	0.0	0	0
q2705c3	問27 (第5子) c:死亡年月 (月)	0.0	0	0
q2705d	問27 (第5子) d:配偶関係	0.0	0	0
q2801a	問28 (1番目) a:最終学歴	1.1	1	95
q2801b	問28 (1番目) b:在学の有無	2.1	2	95
q2801c	問28 (1番目) c:就労形態	3.2	3	95
q2801d	問28 (1番目) d:距離	1.1	1	95
q2801e	問28 (1番目) e:接触	1.1	1	95
q2801f	問28 (1番目) f:関係	1.1	1	95
q2802a	問28 (2番目) a:最終学歴	1.3	1	77
q2802b	問28 (2番目) b:在学の有無	1.3	1	77
q2802c	問28 (2番目) c:就労形態	1.3	1	77
q2802d	問28 (2番目) d:距離	1.3	1	77
q2802e	問28 (2番目) e:接触	1.3	1	77
q2802f	問28 (2番目) f:関係	1.3	1	77
q2803a	問28 (3番目) a:最終学歴	0.0	0	12
q2803b	問28 (3番目) b:在学の有無	0.0	0	12
q2803c	問28 (3番目) c:就労形態	0.0	0	12
q2803d	問28 (3番目) d:距離	0.0	0	12
q2803e	問28 (3番目) e:接触	0.0	0	12
q2803f	問28 (3番目) f:関係	0.0	0	12
q29a1	問29 日常の世話a:あなた	2.6	4	152
q29a2	問29 病気・けがの看病a:あなた	3.9	6	152
q29b1	問29 日常の世話b:配偶者	3.9	6	152
q29b2	問29 病気・けがの看病b:配偶者	5.3	8	152
q29c1	問29 日常の世話c:同居祖父母	19.1	29	152
q29c2	問29 病気・けがの看病c:同居祖父母	19.7	30	152
q29d1	問29 日常の世話d:別居祖父母	11.8	18	152
q29d2	問29 病気・けがの看病d:別居祖父母	12.5	19	152
q29e1	問29 日常の世話e:その他親族	9.9	15	152
q29e2	問29 病気・けがの看病e:その他親族	9.9	15	152
q29f1	問29 日常の世話f:幼稚園等	9.2	14	152
q29f2	問29 病気・けがの看病f:幼稚園等	11.2	17	152
q30	問30 子育ての費用	4.6	7	152
q31	問31 結婚について	0.0	0	32
q32	問32 同棲経験の有無	0.0	0	32
q32a	問32-a 同棲相手との結婚	0.0	0	3
q33a	問33 結婚した場合の生活の変化a	0.0	0	32
q33b	問33 結婚した場合の生活の変化b	0.0	0	32
q33c	問33 結婚した場合の生活の変化c	0.0	0	32
q33d	問33 結婚した場合の生活の変化d	0.0	0	32
q33e	問33 結婚した場合の生活の変化e	0.0	0	32
q33f	問33 結婚した場合の生活の変化f	0.0	0	32
q33g	問33 結婚した場合の生活の変化g	0.0	0	32

プレテスト全変数の無回答数・無回答率 (つづき)

変数名	内容	%	頻度	n
q34a	問34 結婚を決めるきっかけa	3.1	1	32
q34b	問34 結婚を決めるきっかけb	3.1	1	32
q34c	問34 結婚を決めるきっかけc	3.1	1	32
q34d	問34 結婚を決めるきっかけd	3.1	1	32
q34e	問34 結婚を決めるきっかけe	3.1	1	32
q34f	問34 結婚を決めるきっかけf	3.1	1	32
q34g	問34 結婚を決めるきっかけg	3.1	1	32
q35	問35 3年後の親との同別居	6.3	2	32

※問27～問30の無回答については子ども数(問26)不詳のケースを除く

※問31以降の無回答については結婚状況(問20)不詳ケースを除く